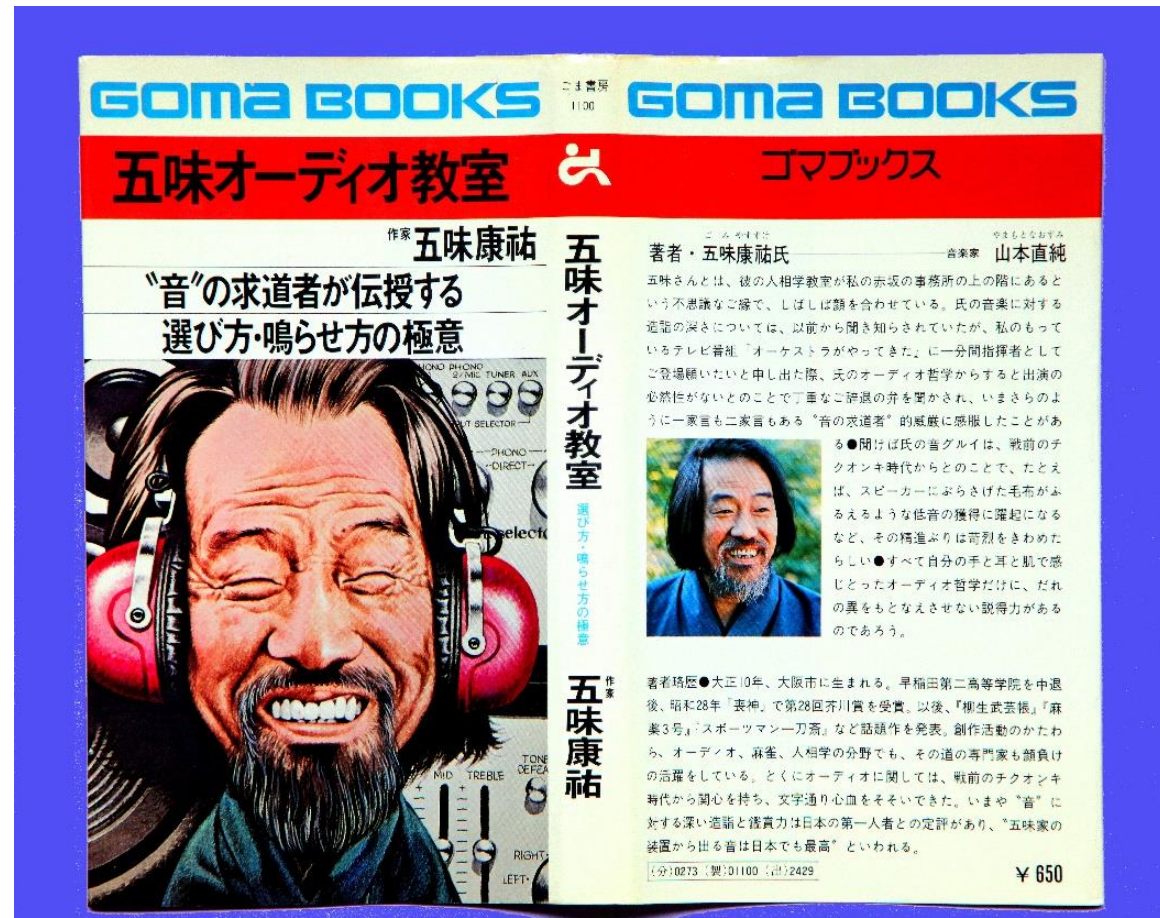


名著『五味オーディオ教室』の紹介

“音”の求道者が伝授する選び方・鳴らせ方の極意

オーディオ名人が言いたい放題ズバリ本音を語る



本書の著者名は正式には **五味康祐**

と書き、発音は『ごみ やすすけ』です。

しかし、『すけ』のこの漢字がワープロで出ないので、通常は本以外では、『祐』で代用していることが多いようです。どちらも『しめすへん』で同じ意味ですが、名前の場合は、本来は正式名で書く必要があります。以下のこの原稿でも『祐』で代用しております。

名前の発音は、『こうすけ』と呼んでいることが多いようです。

五味康祐(1921.12.20-1980.4.1)は、昭和28年に第28回芥川賞を受賞した小説家(特に剣豪小説家)として有名ですが、その他にもオーディオ、麻雀、人相学の各分野でも、その道の専門家も顔負けの大活躍をしていた多彩でとてもユニークな人です。惜しいことに58歳の若さで肺がんで他界されました。自分の私生活の中での、とんでもないいくつかの出来事まで、オーディオ書などに包み隠さずに公表しており、ネガティブイメージになるので知らない方が良かったと思うことも多くあります。彼の人生の中には、本当に色々信じられないようなことがあったようです。このように自分の問題点もありのままに公表する人ですから、オーディオ評論家やオーディオメーカーとその製品などについても、ズバズバと思ったとおりに単純明快に辛口評論をされたので、著作物を読むと対象物の長所も短所もよくわかり非常に参考になるのです。こんな

本は、五味康祐の著作以外には、ほとんど見当たりません。たいていは評論家やメーカーに遠慮して、悪いことは書かないものです。

たとえば、この本に書いてあるその実例としては、現在も健在で、かなり長老の著名な某オーディオ評論家(本には全て実名が書いてある)の自宅にあるオーディオ装置の出す音を聴いたが、それはモニター音であって音楽ではないとか、某有名オーディオメーカーの技術者は音作りが下手で、『いやらしい音』のレコードになっているとか、カラヤンはつまらない指揮者であるなど、枚挙に遑がありません。こういったことを本に書くと、関係者から必ず反論や批判が出て、後が大変ですから、とても勇気がいることです。単なる一個人の意見だと思って、『意見多様性』の範疇のこととして看過することはできないのでしょうか。もっとも直接関係のない大多数の人は、そのような評論を喜びますが。音

の良否、好き嫌いは、完全に主観的なものであり、ある人が『音が悪い！』と言っても、メーカーが『いえいえ当社の音は良いです！』と反論しても、本人の感じ方の問題、主観の相違なので、どうにもなりません。

今までに無数のオーディオ関係の本を読んできましたが、この本『**五味オーディオ教室**』は、単純・明快にズバリ長所も短所も実名で書いてあり、専門的な深い内容で非常に面白くて実際に役に立つという点で名著と言えます。ハードもソフトも実に知識が豊富です。ただし、昭和51年に初版発行のかなり古い本ですが、オーディオの基本原理は、今も当時もほとんど変わっていないので、大部分の内容は現在でも通用しますし、こんなに明快な内容の本は、なかなか見当たりませんので、この本の各項目を全てリストアップし、さらにそのサブ項目も少し追加しますので、大いに参考にしてください。各項目を見るだけでオーディ

オの基本が十分に分かるはずで、ここにリストアップした五味康祐の意見は正に名言ばかりで、私はそのほとんどに同感です。この詳細については、最初に写真を掲載している原本を読むことをお勧めします。この本は、今でも古本屋などで入手できるかと思います。この本の著者は、オーディオ評論家であると同時に芥川賞を受賞した著名な小説家だけあって、文章がわかりやすくともうまく、長所も短所も両方が公平に書いてあり、非常に興味ある内容なので、つい読んでしまいます。ただし、仮名遣いなどにおいて、現在の一般的な用法と異なる部分があります。それに反して、現代のオーディオ評論家は何を言いたいのか訳のわからない曖昧な文章を書いて読者を煙に巻いているようなことが多く、さらに褒め言葉ばかりで、批判的なことは書かないので、読んでも面白くなく、片面だけの偏った評論なのでじっくりと読む気がしません。

裁判にたとえば、弁護側の意見のみで検事側の意見が全くないようなものです。これでは公正な裁判になりません。

この本の内容は、オーディオの神髄を突いており、これぞまさにオーディオの基本的最重要項目ではないかと思われまますので、皆さんに紹介します。とにかく痛快・豪快・明快な、歯に衣を着せぬ評論集です。

『五味オーディオ教室』の全項目と選択サブ項目のリスト

アンダーラインの部分は、私が特に共感する項目。

1. 音を知る

1. 「音」と「音楽」の違いをわきまえよ。

★あなたは「音」を聴きたいのか「音楽」を聴きたいのか

★音を聴き分けられないシロウトでも、音楽の違いはわかる

2. 装置をいじり出すのは、レコードを十分に聴き込んでからでよい。

★たいせつなのは、一枚でもいいレコードを聴くこと

★「——らしい響き」は、ホンモノを聴くことから始まる

3. 音をつくるのは技術屋ではなく、リスナーの耳である。

★測定器はけっして音楽を創りはしない

★オーディオ愛好家は、耳で考える

4. レコードに最良の音が録音されているとはかぎらない。

★優秀な装置に欠陥を露呈されるレコードもある

★音色を左右するのはマシンではない

5. 同じレコードでも、国内盤と輸入盤とでは音(音色)が異なる。

★国内盤の多くは、輸入盤より音がどぎつい

6. 聴き手の好みより、再生装置がレコードを選ぶ。

★レコード音楽はニセモノなのか？

★器機が低劣だと、芸術感覚も低劣になってしまう

7. この世には、最高の装置などはない。

★同じメーカーの同じ製品でも、出る音には違いがある

8. オーディオ装置から鳴っているのは、その人の人生である。

★コストで芸術を問われるのは、不可解千万

9. テープには、音だけでなく録る人の自画像が記録される。

★音楽は見るものではないだろうか？

10. 音の清澄感を左右するのは、低音である。

★音質の優劣は音楽そのものを変える

★低音は地を這い、再生装置全体の音まで変えてしまう

11. 再生音楽はナマ音楽とは別個の”芸術”である。

★音キチが多いのは、日本だけの現象

★ナマ追及は邪道にすぎない

2. 音を創る

12. ナマの深追いは、美しい音を逃がす。

★よい装置で聴くほど、耳に疲れが残らない

★スピーカーからは、けっしてナマの音は出ない

13. 装置は、自分の聴きたい音楽に合わせて選ぶ。

14. 音をつくるのは、あなたの住んでいる部屋である。

★部屋そのものがスピーカーである

★あなたの部屋にふさわしい装置を選べ

★タンノイも悪い部屋にはかなわない

★狭い部屋に、高価な器機を置いてもムダ

15. メーカーブランドは、オーディオ愛好ぶりを推量する資料に過ぎない。

★一つの単体が優れていても、いい音は出ない

16. 専門家の言うとおりに器機を改良しても、音はよくなるらない。

★音づくりは、優秀な部品を組合わせればできるというほど単純ではない

17. 各パーツのあいだには、相性がある。

★アンプ一つで、音にはさまざまな違いが生じる

★相性のいいパーツを選択すれば、最高級品をそろえる必要はない

18. ソケットの差し方を換えただけで、音が違ってくこともある。

19. 何よりもまず、スピーカー・エンクロージャに注意を払おう。

★スピーカーの命はエンクロージャにある

★出費は一時、鑑賞は一生

★グレード・アップはスピーカーを向上させるだけで十分である

20. スピーカーとは音を出す器機ではなく、音を響かせる器機である。

★スピーカーは楽器ではない

★つまらぬ装置だとスピーカーが歌う

★スピーカーには馴らし運転が必要

21. 鳴る音より、音のやんだ沈黙の深さで、スピーカーのよし悪しはわかる。
22. メインアンプの性能を向上させるだけでは、家庭で聴く音はかならずしもよくなるらない。
- ★メインアンプは、音質に大きな役割を果たしている
 - ★大きすぎるアンプは、一般家庭では無用の長物
23. アンプは、真空管式にかなうものはない。
- ★幻の名器”マランツ7”
 - ★倍音のふくらみ方がまるで違う真空管式アンプ
24. チューナーに金をかけるのは愚かなことである。
25. エア・チェックするのは、レコードが出ていないものに限ったほうがよい。

26. カートリッジひとつで、音はまったく変わる。

27. 高級な装置ほど、うまく鳴らすことはむずかしい。

★再生装置に唯一万能のものはない

28. 4チャンネル(次ページ参照)は、クラシック愛好家には無用の長物である。

★一つでも劣ったパーツがあると、音はその劣った水準で鳴る

29. 多チャンネル化は、実現できない超現実の音場づくりに可能性を残す。

★「あなたの部屋がコンサート・ホールになる」本当の意味

3. 音を聴く

30. 音色をつくり出すのは器機ではなく、聴く人の音楽的教養に裏付けられた”生活”である。

【前頁の4チャンネルの補足】

4チャンネルステレオ用のデコーダーアンプとそのCD-4用のカートリッジ

その昔、私が大学院生の頃に流行し始め、その頃にこれでCD-4の専用レコードをよく聴いていました。

4チャンネルにはCD-4、RM、SQ、QSなどの方式があり、CD-4が最も高性能でした。

【注】CD-4とはCompatible Discrete 4 Channelの略



特殊な装置なので今も保管しています



右の写真：日本ビクターが開発したCD-4方式の特性上必要な50KHzまで再生可能な専用高性能カートリッジで、楕円のシバタ針が付いており、これによってカートリッジの性能が非常に向上し、その技術は現在に受け継がれています。

★音楽の聴き方には、各人の法則がある

★器機の操作一つにも、その人の音の履歴が表れる

31. 現在持っている装置に満足してしまったら、美しい音を聴くことはできない。

★自分の装置への不満が聴覚をそだててくれる

★”永遠に迷える羊”はオーディオ・マニアの宿命

32. ステレオをナマ以上の芸術に高めるのは、聴き手の想像力である。

★再生音にあるのは、好きか嫌いかだけである

★想像力を高めるには、よい音楽をよい演奏で聴くしかない

33. 音の”和”を抜きにしては、音の美しさは享受できない。

★ヒアリング・テストは信用しないほうがよい

★歪が、こころよくきこえることもある

★音の味わいとは、甘さと辛さが微妙にからみ合ったもの

34. 自分の耳にまさる音の測定器はない。

★レコード音楽には独自の美学がある

35. レコードを美しく聴くためには、ボリュームをあまり上げてはならない。

★心理的な音と物理的な音とは異なる

★ボリュームの大きさによって音色の調整が必要

36. ステレオ装置は愛情を込めて手なづけ、聴き込まなければならない。

★装置への愛情が、いい音をうみ出す

★いい音を聴いた記憶が、あなた自身の音づくりを方向づける

37. 器機がいつも同じ音を出すと思う人には、音を語る資格はない。

★スピーカーにも機嫌のいいときと悪いときがある

★贅美な音を知ってこそ、機器の機嫌をとることになる

38. 装置の外観もまた、音を美しく聴く要素のひとつである。

★見ているだけで楽しいヨーロッパのオーディオ製品【私の意見を後述】

★いい音を出すだけでは、音楽鑑賞は片手落ち

39. どんなレコードを持たないかも、コレクションでは重要なことである。

★凡曲を知っている人よりも知らないほうが”教養人”である

40. 重要なのは、レコードを何枚持っているかではなく、何を持っているかである。

★ロクでもないレコードを何百枚も持つのは、よほどの暇人だ

★感動を失わないためには、あまり数多く聴かないこと

★いいレコードは、結局いつ聴いてもいい

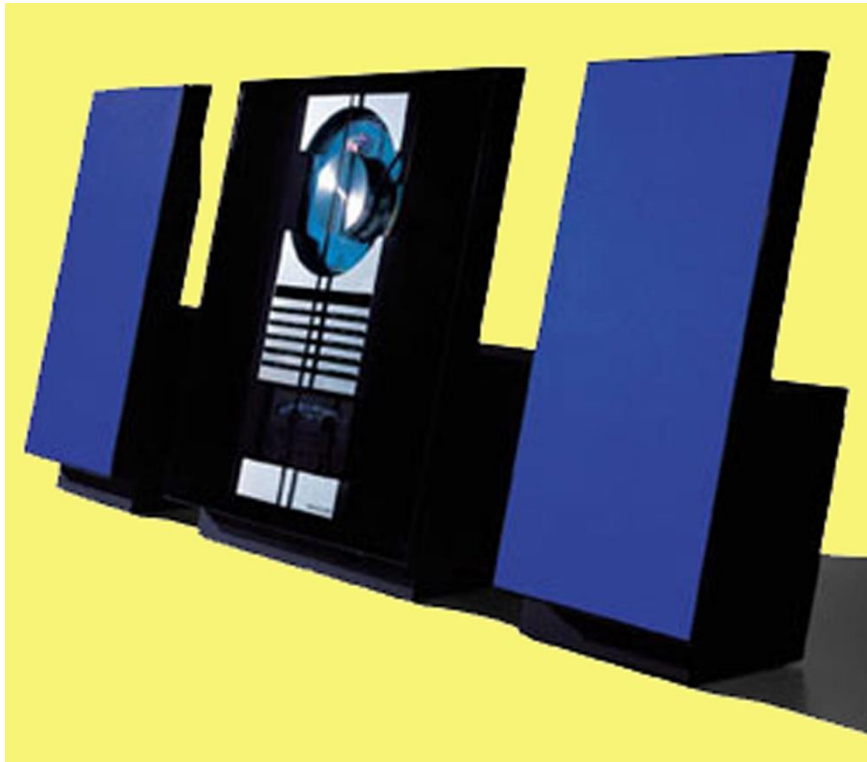
★名盤は、聴き込んでみずからつくるもの

上記の『★見ているだけで楽しいヨーロッパのオーディオ製品』に対する私の意見:

ヨーロッパのオーディオショップを訪問しても、日本のような大げさな大鑑巨砲主義的な見るからにメカメカした器機といった装置は見当たりません。彼らは、生の本格的な一流の音楽を簡単に聴けるので、再生音楽を重視しておらず、装置はリビングルームに置いても場所を取らない、『美しいデザインのとてもお洒落な小型家具』のような扱いをしており、たとえば特に以前のB&OやQUADなどの製品は、その

デザイン重視のヨーロッパのオーディオ装置の実例

とてもお洒落で実に素晴らしいデザインです



B&O BeoSystem 2500
(デンマーク製)



QUAD プリアンプ 33
(イギリス製)

これを買うためにロンドンの町中を探し回ったことがあります。

よい実例です。しかし、このようなお洒落で性能がそこそこの装置は、日本の熱烈なオーディオマニアの好みではなく、どうしてもデザインは二の次で、スペック重視の大げさな装置を好みます。日本では。本格的な生演奏を簡単に聴けず、再生音楽がメインの音源なので装置に凝り、部屋中が美的センス皆無で武骨な装置やケーブルにあふれているのは仕方ないことでしょう。しかも、いつまでたってもシステムが確定せず、常に変更・追加があるのです。こうすることによって、奥さんに『いい加減にしてよ！ もうこれ以上は増やさないで！ 見た目が悪い！ なぜアンプを何台も持っているの？ あんたが死んだらこんなのどうするの、ゴミの日に出せないでしょ！ こんなゴツゴツして重いガラクタを置いたまま死なないでね！』などと文句を言われ続けることになります。オーディオマニアなら、真空管や出カトランスなど

を見るとワクワクしますが、女性は全く興味を示さず、こんなものどこがいいのとなります。場合によっては、嫌悪感さえ覚える場合もあるようです。こうして永遠に苦悩と戦いが続くことになり、こんな状況下では純粋に音楽に専念・没頭することができず、とても気の毒なことです。

今まで聞いた中で最も凄い信じられない実話は、左右に各1台のスピーカーがあるのを見て、『なんで全く同じものを2つも買ったのよ？部屋が狭いので、1つ処分してよ！』です。こんな奥さんを持ったら、本当に不幸ですねー、同情します。世の中には本当に信じられないようなことがあるものです。無知と価値観の相違は恐ろしいと思います。

上記の家庭内の問題の話は、友人や知人からよく聞くことであり、決して我が家のことではありませんので、念のため申し添えます。ちなみに当家には、現在アンプに接続してあるスピーカーは、8.1CHなどもしている関係で4部屋に大小合わせて34本もあります。『量より質が重要』ですが、量も多くて質もハイならば、もう最高です。上記の2本で文句を言っている奥さんなら、こんな多数のスピーカーを見たら、きっと腰を抜かすでしょうね！

完